

福島市長 木幡 浩(こはた ひろし)

自己紹介

略 歴

- ・ 福島県飯舘村生まれ
- ・ 原町高校→東京大学経済学部
- ・ 自治省(現総務省)入省
- ・ 岡山県副知事
- ・ 消防大学校長
- ・ 復興庁福島復興局長
- ・ 福島市長 現在2期目
東北市長会会長、中核市市長会会長

1 卒業後の進路選択

- ◆官民に別にこだわりなく、戦略的な意思決定に関わり、社会に貢献したい
- ◆若い時代から関わり、自分も向上したい
- ◆幅広い仕事を経験したい
- ◆知らない地域＋ゆとりが持てる地方での勤務
→ 人生を豊かにしたい
- ◆自由な空気を持つ職場印象

＜結果＞概ね狙い通り。ただし、予想以上にきつい。

- ・行財政、地域振興、危機管理、金融、大学と幅広い業務
- ・若い頃から責任ある立場、思い切った企画

2 国や地方自治体での行政経験(1)

▶長崎県地方課(主事)

- ・自治体の現場、異なる地方の貴重な経験
- ・前例に捕らわれない仕事の基本

▶消防庁地域防災課(事務官)

- ・危機管理の重要性、チェルノブイリ等の災害・事故を担当

▶自治省財政課(事務官→係長クラス)

- ・地方財政の全体的仕組みや地方交付税
- ・消費税導入、国庫補助負担金の全体的見直し、ふるさと創生1億円、メディア対応など

▶徳島市財政部長

- ・財政と議会の責任者、前例なき議会対応
- ・政策転換を主導(開発優先⇒生涯福祉、水と緑のまちづくり)
- ・阿波踊り会館など

2 国や地方自治体での行政経験(2)

▶国土庁地方都市整備課(課長補佐)

- ・東京一極集中是正を狙う地方拠点法の全省庁取りまとめ
- ・各地の創意工夫ある地域づくりに関わる

▶長崎県財政課長

- ・財政と議会の責任者、雲仙、大湯水、戦後50年への対応
- ・財政主導で経済対策等の政策パッケージ、県内拠点のまちづくり支援

▶消防庁防災課(災害対策官)

- ・阪神・淡路大震災後の防災対策全面見直し～法令、計画、事業、財政
- ・緊急防災基盤整備事業、防災まちづくり大賞等の創設、映画製作
- ・実効性確保へのこだわり

▶自治省振興課・行政体制整備室(課長補佐)

- ・地方行革と平成の合併の促進運動を立ち上げ、中核市運用開始期を主担当、住基ネット関与
- ・地方行政に経営感覚導入

2 国や地方自治体での行政経験(3)

▶香川県健康福祉部次長→部長→政策部長

- ・高齢者医療(68・69)制度の見直し(廃止の一方、元気づくり支援、小児医療支援充実)、先駆的遠隔医療システム、救急・健康危機管理強化
- ・地域全体での子育て支援制度創設→全国に波及
- ・全国初運営型PFI・e-とぴあ、地域経済の政策パッケージ、実効性重視の政策評価システム創設

▶沖縄公庫総務部長、地方金融機構資金部長・経営企画部長

- ・金融の経験、金融と行政・地域の相互の視点からのアプローチ
- ・政策金融改革への対応、地域貢献の企画(泡盛特例、地域懇談等)
- ・地方金融機構初の外債発行、弾力的債券発行の仕組み創設、資産24兆円のガバナンス、派遣職員等への横断的研修制度など

▶北海道大学公共政策大学院教授

- ・地域経営をテーマに教鞭。院の地域貢献施策等を取りまとめ。
- ・理論的整理と新たな潮流の習得でリフレッシュ。
- ・地方議員向けサマースクール開講。留萌市の病院改革、夕張市鹿鳴館の見直しなど

2 国や地方自治体での行政経験(4)

▶総務省公営企業課長

- ・公営企業の健全化路線→経営戦略へ(投資も行って持続的経営へ)
- ・会計制度大幅見直し、3セクの抜本改革、民間経営手法の導入促進

▶岡山県副知事

- ・民間出身知事の初代サポート役、経営改革と教育再生・産業振興の両立
- ・CLTの推進、3セク鉄道の経営改革、現代アート「岡山芸術交流」、岡山マラソン、頑張る学校応援事業など

▶総務省大学校長

- ・消防の最高研修機関。バージョンアップ計画策定し、高度化推進
- ・組織マネジメント開講、NBC災害対応、女性用施設・コース創設、デジタル環境整備、実践的訓練強化など

▶復興庁福島復興局長

- ・転換期の現場責任者として、地元に関わり添い復興施策を調整・推進
- ・常磐線の全線開通への調整、メディアとのコミュニケーション強化
- ・帰還困難区域の再生へ転換～法改正で特定復興再生拠点区域の導入

3 福島市長への挑戦

<直接的には> ～ 地元市議等からの要請

<決断の背景>

①福島復興をライフワークとする意欲（民間でも）

←復興に奮闘する友人等の存在

②国際的にも存在感のある魅力と活力ある地方都市をつくる願望

③国・県・市の経験 → 実際に動かすのは市町村
自分は現場向き

④福島市の魅力と潜在力、一方で市政の現状への危機感



▶新ステージ（beyond復興）を目指すまちづくりで福島市の復興創生を推進、ずっと住み続けたい魅力あるまちを実現

▶福島復興を牽引

▶「福島」は世界的存在＋逆境からの挑戦

→ 支援を受ける側から「エールをおくるまち」に

4 福島市の新ステージに向けた挑戦

《福島市の概要》



東京から最短約80分



人口28万人を抱える都市的側面



いやしと自己回復の環境
(豊かな自然、温泉、くだもの)

移住者が急増中！

実・湧・満・彩なまち

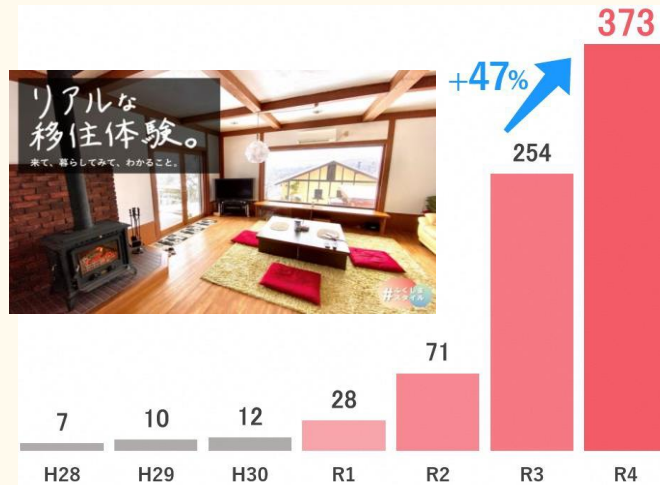
移住者数

過去最多を更新

R3 ▶ R4

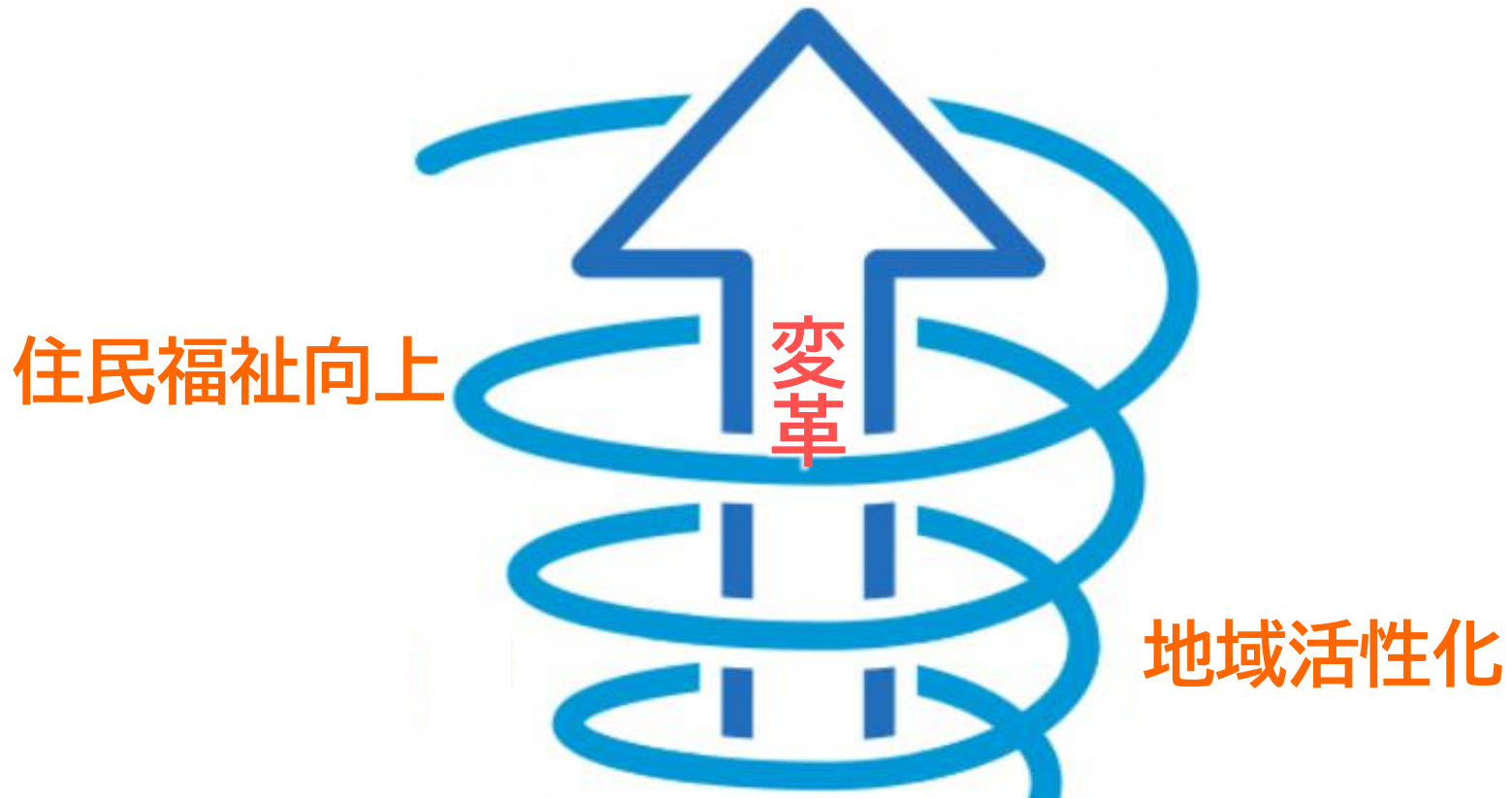
254人 ▶ **373人** 対前年度比 **147%**

141世帯 ▶ **210世帯** 対前年度比 **149%**



私の基本姿勢(1)

一般的な市長の役割＝行政 ➡ 地域経営
復興・創生、世界にエールを送るまち



持続的スパイラル

私の基本姿勢(2)

最小の経費で最大の効果・満足



*Win-Win関係

人・まち・自然が奏でるハーモニー 未来協奏(共創)都市 ～世界にエールを送るまち ふくしま～

- ・市民が誇りをもって住み続けたい、よその人が関わってみたいと思うまち
- ・これを実現し、大震災からの復興創生を成し遂げることで、「世界にエールを送るまち」に

基本理念(まちづくり全体を網羅する重要な5つの視点)

1. 福島らしさを生かした 新ステージの形成

自然や歴史、花や音楽等、
福島らしい特徴を生かす視点
グレードアップしていく視点

2. 持続可能性の実現

地域としての持続可能性、
SDGsの要素や考え方を考
慮する視点

3. 多様性の尊重

人間尊重や一人ひとり、
様々な主体の多様性を尊重
する視点

福島らしさを生かしたここにしかないまち



田園の豊かさ、人の好さを生かした
共生・共創のまち

4. 県都としての責務

「福島」の名を有する県都と
して県全体の発展、復興・
創生に貢献する視点

5. ポストコロナ時代を 見据えた社会づくり

ポストコロナ時代を見据え
た新たな発想による社会づ
くりの視点

復興創生・広域的発展を牽引

住み続けたいまち

移住・定住拡大

デジタル化
ゼロカーボン化

安全・安心

子育て・教育

産業振興

賑わい・文化

女性等活躍
共創

関係人口拡大

関わりたいまち

1. 度重なる危機対応

リーダーシップ、迅速な初動、市民に寄り沿う、対策のレベルアップ

①台風19号

- ・被災経験を教訓に、対策の抜本強化～水害対策パッケージ
→独自の災害対策オペレーションシステム、水位予測システム、
ペット同伴避難所、福祉施設と連携した避難体制など

水害対策パッケージ



多様な避難所開設 ペット避難所



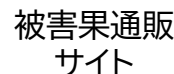
②2度の福島県沖地震

- ・多重災害への支援策と地震対策加速
- ・新たなまちづくり展開
(半壊以上家屋の公費解体、
復興公営住宅の入居緩和など)



・被害救済に止まらず、農業経営の高度化につながる対策

軽トラ市や通販で被害果実販売

[illegible]

- ・市長メッセージ等による感染拡大防止対策
- ・ポストコロナに向け、変革を積極推進 ～ 高齢者にも優しいデジタル化、移住・企業移転の取組強化(拠点設置等)、電動シェアサイクル導入、失職クリエイターと連携した製品開発など

「好きなサイクルポートで乗り捨てOK!

自転車借りられます



MOMORIN
SHARE CYCLE

すきぬところで

2. 東京2020、朝ドラ「エール」

最大限に活用し、レガシー形成。市政のレベルアップ

(1) 東京2020レガシーを生かしたまちづくり

① 共生社会

- ・多様性の尊重 → 市政5つの理念の一つに
- ・共生社会ホストタウン、先導的共生社会ホストタウン(全国15)
- ・バリアフリー推進パッケージ～ハード・ソフト・心のバリアフリー
- ・共生条例、推進パートナー、市民参加でハード整備、



パラスポーツの推進

② 多文化共生

- ・インバウンドの環境整備
情報発信や相談機能の強化
- ・外国人の居場所
～多文化共生センター「YUIVERSE」の開設



バリアフリー推進パートナー



まち歩き点検



福島市長としての市政展開（２）

③健康づくり～健都ふくしまの創造

- ・受動喫煙防止～条例制定等
- ・家庭・職場・地域での健康づくり、
- ・健脚文化～健康づくり競争で地域づくり



適しおサポーター



日本一のおおわらじ

④スポーツのまちづくり

- ・スポーツの振興：施設整備、核の大会～ふくしまシティハーフ
- ・スポーツコミッション：大会・合宿誘致～日米ソフト、大波3兄弟
- ・パラスポーツ振興～ボッチャ全国大会、市長杯



シティハーフマラソン



荒汐部屋 福島合宿

（２）古関裕而のまちづくり

大作曲家・本市唯一の名誉市民がモデルの朝ドラ実現活動

→朝ドラ「エール」の実現

①音楽があふれるまちづくり

- ・作曲コンクール、チェンバオーケストラの創設
- ・まちじゅうに音楽～まちなか音楽祭、メロディバス、まちなかメロディボックス、ストリートピアノ、校歌・社歌収集・コンサートなど
- ・古関氏顕彰の充実～ロゴ作成、記念館リニューアル、古関裕而ストリート、デザインマホールなど
- ・3県朝ドラ連携おかえりプロジェクト～有楽町に情報ステーションおかえり館



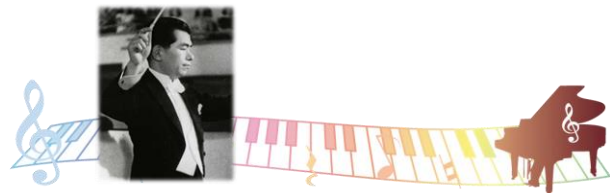
2020 朝ドラ『エール』放送



第1回作曲コンクール本選



デザインマンホール



福島市長としての市政展開（2）

②野球殿堂入り

- ・5年に及ぶ運動
- ・記念全早慶戦の開催



③ロケツーリズムの展開

- ・推進・受入れ体制整備
- ・朝ドラ「エール」でロケーションジャパン大賞準グランプリ
- ・ロケの増加(H2:10→H3:20→H4:30)
- ・ロケ地マップ



吾妻山でのロケ風景



3. 子育てと教育で選ばれるまち

～子どもファーストで相対的に「質」に重点

(1) 待機児童の解消

- ・就任時県下ワーストの待機児童数 → 就任直後に官民一体の推進体制整備 → 緊急対策パッケージ → 1か月半で緊急補正予算
- ・「保育の受け皿の拡大」と「保育士確保」を柱に、R3から待機ゼロ
- ・AI活用、私立幼稚園の預かり保育・企業主導型促進、独自奨学金など

(2) 子育て支援

- ・地域全体での子どもの育ちを支援～「こどものえがお条例」
- ・民間主導の「未来への子育てエール運動」
- ・街なかこどもの日
- ・イクボス、おとう飯、育休取得促進（市役所R5.9まで69%）
- ・特色ある幼児教育・保育
- ・多様な保育、送迎ステーション～多様なニーズに対応
- ・新婚・子育て世帯向け住宅供給
- ・R5日本子育て支援大賞受賞



特色ある幼児教育・保育

（3）学校教育の充実

- ・トイレ洋式化(4年間で22%→83%)、机椅子の一斉更新
- ・統廃合、義務教育学校設置、子どもの意向踏まえたリフレッシュ
- ・福島型オンライン教育～持ち帰り、オンライン教育の日
- ・指導力優秀なスーパーティーチャー、不登校対策人員の独自配置
- ・福島型個性を伸ばす教育 ～ 学校活動の地域移行と連携
- ・読書促進 → 国語力向上
～ ふくよみの日、電子図書館(児童生徒全員にID付与)、学校司書連携
- ・福島型給食



福島型オンライン授業



福島型給食



ふくよみマスコット

（4）生涯学習

- ・東北で2番目の公立夜間中学開設(R6. 4)
- ・新時代型拠点 ～ 市民センター、地区学習センター再整備

4. 賑わい創出 ～ 中心市街地の活性化

老朽公共施設の再編整備を進めつつ、ハード・ソフトにわたり、活性化のための抜本改造を推進

(1) 風格ある県都のまちづくり構想

・就任後1年で、市民参加も得ながら策定

(2) 公共施設の再編整備

①耐震性不足の公会堂、市民会館等、中央学習センター

→ 集客・交流施設(駅前再開発)、市民センター(西棟構想に統合)

②消防庁舎 → 市民会館等跡地へ移転整備

③中央図書館(未定)



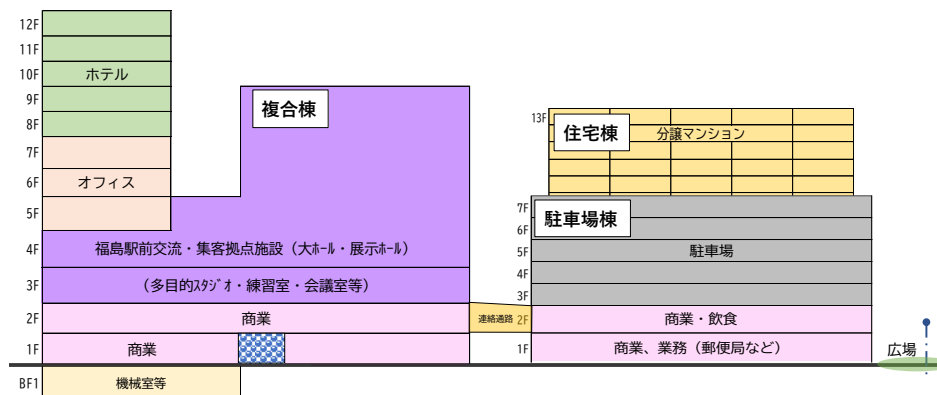
(仮称)市民センターイメージ

（３）拠点施設の集積

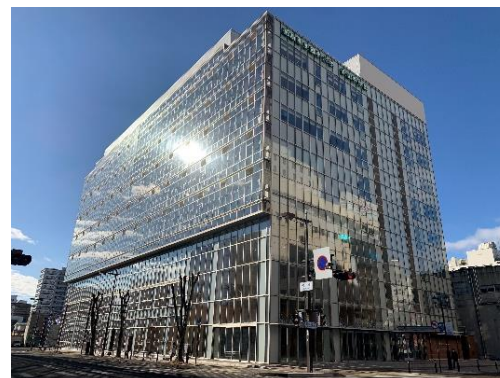
- ①駅前再開発、公共施設
- ②まちなか広場、街なか交流館、ふくふる、多文化共生センター、センタークリエイティブ・ビジネス・サロン、エールビジョン
- ③県立医大駅前キャンパス、総合病院の移転新築



駅前再開発イメージ



リニューアルしたまちなか広場



県立医大駅前キャンパス

（４）店舗や人が集まる仕掛け

- ①空き店舗のリノベ支援、補助 → クリエイティブ人材も集積
- ②街なか居住の推進



街なか再生リノベーション

（５）イベント等による賑わい創出

- ①まちなか賑わい創出プロジェクト～官民連携してイベント展開
 - ・イベント開催補助、開催時期調整など
- ②若者・こどもの活動支援～若者・こどもの街なか回帰
- ③街路・歩道の有効活用
 - ・ホコ天、地下道イベント空間化、デザイナーアート等



仮囲い装飾 黒板アート



街なかテーマパーク

（６）回遊を促す仕掛け

- ①シェアサイクル、パーク＆ライド、メロディバス
- ②回遊式イベント、会場分散のイベント同時開催



ももりんシェアサイクル



メロディバス

（７）福島らしい文化の香る中心市街地に

- ①花いっぱい
- ②音楽があふれるまち
- ③バリアフリー



桃源郷花見山



福島駅地下歩道会談アート



パセオ通りのバリアフリー化

福島市長としての市政展開（４）

街なかの新しい動き

①クリエイティブビジネスサロン



②駅前地下歩道ストリートピアノ階段アート、新・街なか交流館



③歩行者天国定期化(軽トラ市)



④新まちなか広場整備



⑤福島駅東口地区市街地再開発事業



⑥県立医大保健科学部開設ほか、大原綜合病院・福島赤十字病院移転新築



⑩古関裕而記念館リニューアル



⑨(仮称)市民センター整備



⑧県庁通りアーケード改修



⑦パセオ通りバリアフリー化



5. 新たな産業政策

(1) 持続可能な農業に

①新規就農支援アグリッシュ・パッケージ ～ 農業メンター導入

②ブランド化と販売拡大

- ・ブランド化の生産・販売管理～いちご、もも等
- ・F-BOX～詰合せ商品ブランド化
- ・道の駅ふくしま、軽トラ市
- ・ピーチホリデー(アップル等)
- ・ふくしまスイーツプレミアム



ゆうやけベリー



ふくしまスイーツ・プレミアム



F-BOX

③次世代型農業

- ・省エネ設備やスマート農業導入
- ・カジュワーク制度(人手確保マッチング)



カジュワーク

（２）商工業の高度化

①企業誘致～H30～R5で19社の企業誘致

- ・福島おおぞそうインター工業団地

第1期完売、第2期R6年度分譲開始予定



- ・本社・支社機能の誘致 ～ 「ゆとり満喫福島オフィス」開設支援
- ・廃校の有効活用
風力発電メンテナンス技術者訓練施設、ものづくり工場の誘致

（２）商工業の高度化

②創業支援

- ・段階的成長を促す創業支援

クリエイティブビジネスサロン等→街なか創業ゾーンの形成

- ・起業女子応援パッケージ

- ・大学や誘致企業、地元企業の交流・連携による研究開発、創業



クリエイティブビジネスサロン



起業女子応援パッケージ

③企業の成長支援

- ・事業拡大、高度化、新分野進出への支援の拡充



福島市の 創業支援が さらに充実

A. 街なか再生リノベーション

B. 街なか空き店舗入居者家賃補助

C. 新たなビジネスモデル創出支援

D. 創業応援利子補給

E. ふくしま起業女子応援パッケージ

F. 「ゆとり満喫福島オフィス」開設支援

G. ふくしまチャレンジフィールド

H. クリエイティブビジネスサロン

「ゆとり満喫福島オフィス」開設支援

F.「ゆとり満喫福島オフィス」開設支援

本市に本社等のオフィスを移転・開設する企業とその雇用者を支援します。

福島市 **本社移転・支社開設支援**
(本店登記を本市に移転・支店登記をした事務所を開設すること)

改修費用
設備購入費
オフィス賃料

補助対象経費の3/4以内
上限**500万円**

最大**12か月**
相当分

福島県の制度 **サテライトオフィス開設支援**
(福島県テレワーク施設等整備補助金)

併用可能

必要な施設の改修、備品購入など

補助対象経費の3/4以内
上限**500万円**

※ただし、環境整備費は100万円以内とする。



働く方が福島市に転入

転入支援助成金
1人あたり**20万円**
(常用雇用者対象)

家族の引越し支援
1世帯あたり**上限15万円**
(1/2以内)

農業満喫支援
「わいわい市民農園」
使用料**1年間無料**

温泉満喫支援
「湯めぐりパスポート」
入浴料**1年間無料**

二地域で居住する方

温泉満喫支援
「入浴回数券」
12枚綴り
1セット贈呈

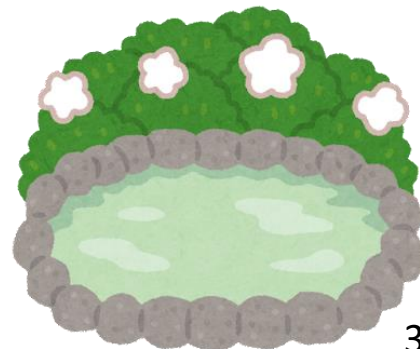
法人が対象
くだもの満喫支援
「くだもの木オーナー制度」
無料提供



こんな方におすすめ！

地方でゆとりある豊かな生活を満喫したい！

本社を福島に移したい・支社を開設したい！



A. 街なか再生リノベーション

令和4年6月開始

中心市街地の空き店舗をリノベーションして開業する事業者を支援します。

特にクリエイターなど都市型産業は手厚く支援！

【補助対象経費】

外装・内装にかかる工事費、給排水・空調・ガス工事費、サイン・電気・照明工事費、ネットワーク環境接続費の初期投資費用 など

対象事業者	補助 上限額	補助 下限額	補助率
①各種産業	200万円	10万円	1/2 以内
②クリエイティブ産業			2/3 以内



空き店舗
リノベーション



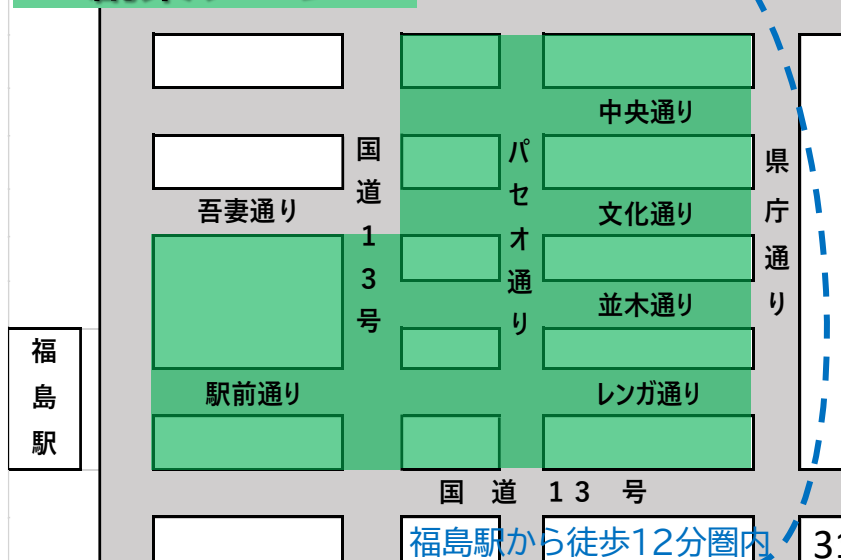
併用可能！

B. 街なか空き店舗入居者家賃補助

中心市街地等の空き店舗に出店する際の家賃の一部を補助します。空き店舗 重点対策地域(右図参照)については、階層と業種の制限を大幅に緩和(2階以上やオフィスも対象に)しました。

区分/補助率	1年目	2年目	3年目
1号店(新規創業)	10/12	7/12	4/12
2号店以降	8/12	6/12	4/12

<“創業ゾーン”>



福島駅から徒歩12分圏内

6. その他特徴的な政策

(1) 個性的な地域づくり

① UFOのまちづくり

国際UFO研究所、UFO関連物産、イベント

② 飯坂温泉 ～ 熱さ番付

③ 納豆料理コンテスト など



納豆料理コンテスト



(2) デジタル改革

- ① デジタル都市宣言 ～ 多くの主体にデジタル化の恩恵を
・推進協議会、デジタル人材バンク、デジタルサポートデスク
- ② 高齢者にやさしいデジタル化～高齢者自身が推進力、子どもとの交流
- ③ 実情に応じた内製化 → 「議会答弁システム」は自治体ビジネスに



デジタル都市宣言



デジタルサポートデスク

(3) ふるさと納税

- ① 4年間で20倍 ～ H29:6千万円 → R3:12.4億円
- ② まちづくり賛同型の制度運営
- ③ 課題解決型、
マーケティング型の返礼品



（4）移住・定住の促進

①総合的な移住促進

相談機能強化、親身な案内、横断的・充実した移住支援

②新婚・子育て世帯向け住宅支援



ふくしま☆スタイル住宅整備

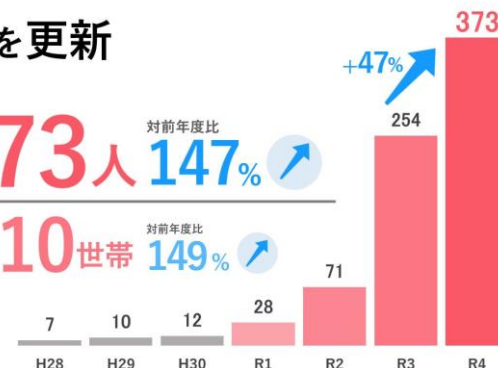
移住者数

過去最多を更新

R3 ▶ R4

254人 ▶ **373人** 対前年度比 **147%**

141世帯 ▶ **210世帯** 対前年度比 **149%**



（5）女性が活躍しやすい社会形成

①審議会等の女性比率（H29:29.1%→R5:38.3%）

②地域社会での女性参加～H30:12%→R5:39%（自治振興協議会）

③男性職員育休取得率（H29:6.3%→R5:69%） など

行動宣言

輝く女性の活躍を加速する
男性リーダーの会



働く女性応援企業ゴールド認証



子育てエールメッセージ

（6）インパクトのある情報発信

否応なく注目されがちな「福島市」の面も

- ①「ノーモア・メガソーラー宣言 ～地域共生型の再エネ推進の決意を込めて～」発信
- ②復興関連発信 ～処理水、中国からの嫌がらせ電話
- ③コロナ関連 ～ 緊急警報、オンライン帰省動画、市民・企業の協力によるマスク・医療資材調達など

ノーモア メガソーラー宣言

- ・山地への新規大規模太陽光発電を望まない
- ・地域共生型の再生可能エネルギーを推進

市の対応策・方針を発信

宣言による意思表示



開発が進み山肌が露わになった山々

（7）市役所や地域の意識改革



かえるチャレンジの取り組み

5 キャリア選択にあたって

<これまでに私を支えてきたもの>

少しでも良くしたいと
いう向上心

一緒に取り組んでくれた人
との縁



リスク(責任)を負う
失敗を認め、失敗に学ぶ

縁を大切に！



覚悟←備え

心身の健康

